

サーサナ

第49号 仏暦2563（西暦2020）年7月22日

仏教と経済

「仏教経済学」という言葉を聞いたことがおありでしょうか？お寺の経営のしかたを教えてくれる学問のこと？いいえ、まったく違います。

仏教と経済とはまったく違う次元のこと、仏教は精神生活、経済は物質生活にそれぞれ関わるもの、と多くの人が思っています。しかし、仏教が説く「八正道」のうちの「正命」は、正当ななりわいを持って生活を営むこと、殺生やその他倫理に反する職業や仕事（軍事産業、カジノ産業など）をしないことをいいます。「命」というのはここでは職業、ないし生計としての生き方をいいます。そうであるからには、仏教が経済活動を視野に入れることは当然のことです。

しかしながら、仏教に専門的に従事してきた僧院にあって、このことは従来とかなおざりにされてきました。

これにたいし、世界で最初に「仏教経済学」を提唱したのがドイツ人の経済学者エルンスト・シューマッハーです。イギリス政府の経済顧問だったシューマッハーは、1955年にビルマ政府に経済顧問として招かれて現地を訪れた際、現地の仏教徒の生活に触発され、その後1966年に論文「仏教経済学」を発表しました。これは彼の代表作“Small is Beautiful”に収録されていますが、彼が本書で予言した石油危機が1973年に現実のこととなり、一躍ベストセラーとなりました。（日本語訳の『スモール イズ ビューティフル』が講談社学術文庫から出ています）

拝金主義、物質生活至上、科学技術信仰など、近代産業社会の病根をえぐり出し、それに代わる生活スタイルの確立と、それを可能にする経済システムの構築は、現代に生きる私たちにとって、仏教徒だけでなくすべての人々にとって、考えるべき課題です。従来同様の経済成長は望むべくもなく、また望ましいものでもありません。

仏教では伝統的に「小欲知足」（必要十分なモノで満足すること）や「自利利他」（自分の利益だけでなく他者の利益にもなるように、両者が対立しないような生き方をすること）という考え方があります。シューマーハーはそれを現代社会に適用して、具体的な処方提唱しました。雇用のあり方、適正な経済規模の策定などです。誤解してはならないのですが、仏教経済学では「清貧」をすすめているわけではないのです。人間の幸福につながるような経済成長が必要です。今の日本の政治経済は、はたして人間の幸福につながっているのか、それを見極めるためにも仏教経済学の果たす役割は大きいといえます。

法要行事について

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。



八月 孟蘭盆会（うらぼんえ、お盆）

もともとは、釈尊の弟子の目連尊者が、餓鬼道に堕ちた母を救うために、安居（集中講義）の終わる7月15日に、大勢の出家僧侶に飲食物の供養を行なったことに由来する行事です。

- ❖日時 8月13日（木）午前8時～9時
- ❖内容 勤行（和訳阿弥陀経、正信偈同朋奉讃）、法話（住職）
- ❖持ち物 勤行本（『抄訳佛説阿弥陀経』『正信偈同朋奉讃』）
- ❖記念品 朱蠟

※コロナ感染対策のため参拝は予約制とします。

孟蘭盆会について個別（家族単位）でのお勤めを御希望の場合は、次のいずれかにより予約して下さい。

1. 本堂でのお勤め
8月14日午前8時より正午まで、15分刻みで御希望の時間を指定していただけます。先着順です。十六家族様まで。
2. 自宅の御内仏前でのお勤め
(1)13日午後 (2)13日夜 (3)14日午後 (4)14日夜 (5)15日午前 (6)15日午後
のいずれかの時間枠をご指定下さい。午前とは8時から12時まで、午後とは1時から4時まで、夜とは5時から8時までをいいます。これ以外の日時は応相談。

九月 秋彼岸会

※事情により今年は執行がありません

十月 報恩講（ほうおんこう）

報恩講とは、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人（1173-1262）の御命日にあたり、宗祖への報恩謝徳をあらわす法要です。浄土真宗では最も重要な法要で、「お仏事」といえば報恩講のことをいいます。



- ❖日 時 10月29日（木）午前10時～正午
- ❖内 容 勤行（文類偈・念仏讃・回向）、および法話
- ❖持ち物 念珠、勤行本
『報恩講勤行テキスト』、
- ❖法 話 前田和丸師（一心寺住職）
- ❖記念施本 法語カレンダー、教化施本ほか

※コロナ感染対策のため参拝は予約制とします。

また、午前のみでお斎はありません。

永代経懇志お礼

下記のとおり永代経懇志を頂戴いたしました。ここにあらためてお礼申し上げますと共に、今後とも法義相続されますことを願いたします。

5月6日 法音院釋和敬（願主・服部様[緑区]20万円）

※永代経懇志とは、寺院の護持発展のための寄付金のことです。懇志をいただきますと、本堂の法名軸に縁者（あるいはご自身）の法名を書き入れて永代読経いたします。

**人間性を単なる手段としてではなく
つねに同時に目的として
扱うように行為せよ**

イマヌエル・カント [ドイツの哲学者]

仏教聖典フリーダウンロード

仏教伝道協会は、仏教を世界に広めることを目的とし、浄土真宗の僧侶であり、株式会社ミットヨ（精密測定機器メーカー）を創業した沼田恵範師によって設立されました。沼田師は、キリスト教の聖書が主要ホテルの客室に置かれていることに注目し、仏教聖典も同じように世界各地のホテルへ大量に頒布することを発願しました。そのための資金は私財をなげうって調達したということです。

『仏教聖典』は現在、日本語や英語を含め46の言語で発行され、世界56ヶ国、10,000以上のホテルに置かれ、配布総数は700万部にものぼります。また現在は、英訳大蔵経（＝一切経）の刊行をすすめています。

『仏教聖典』のすべての言語版および英訳大蔵経は、書店経由で購入することもできますが、無料でインターネットからダウンロードすることができますようになりました。（<https://bdk-seiten.com/scripture-download.php>）

なお、『仏教聖典』のエスペラント語版は、その第2版改訳を私（山口）が担当し、さらに全面改訳をすすめているところです。

「浄土真宗親鸞会」にご注意！

浄土真宗親鸞会というと、浄土真宗あるいは本願寺と関係のある団体か、と思われる方もいらっしゃると思います。この会はいくつかの別組織を有し、一万年堂出版やチューリップ企画は新聞広告にも頻繁に登場します。（『光に向かって100の花束』『歎異抄をひらく』『なぜ生きる』など）

しかし親鸞会は、本願寺派・大谷派・高田派など、真宗教団連合に加盟する伝統教団とは関係がありません。会長の高森氏はかつて浄土真宗本願寺派（西本願寺）僧侶でしたが、僧籍を離脱し、東西本願寺を批判しています。彼らの教義の特徴は、信心決定していない者は必ず地獄に堕ちる、というものの、また親鸞会以外のすべての宗教宗派はすべて邪教であるとしています。

「浄土真宗被害家族の会」には、脱会者や家族の手記がよせられ、この会の実態が赤裸々につづられています。（<http://higai-kazoku.news.coocan.jp/>）

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 F A X：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
